



KIN-BALL[®] sport NEWSLETTER

ご 挨拶

一般社団法人日本キンボールスポーツ連盟 理事長 今泉 良正



コロナ禍ではありますが、昨年の東京オリンピック・パラリンピックに引き続き、北京オリンピック・パラリンピックが日本選手の活躍で大きな盛り上がりを見せました。しかし、北京オリンピックでは、いろいろな混乱や波乱の中で「大きな憤り」「胸が痛くなるような思い」「やるせない思い」がスポーツ界に波紋を広げました。しかし、メダルの有無にかかわらず、深い感動や温かい気持ちが込み上げ、スポーツの持つ大きな魅力や意義を感じることもできました。真摯に最後まで努力、挑戦する姿、相手に敬意を払い、立ち向かっていく姿、チームメイトと明るく互いに助け合っていく姿、国籍に関係なく健闘を称えあう姿が顕著に現われるのがスポーツだということを実感することができました。このことは、メジャースポーツ・マイナースポーツ、大きな大会・小さな大会などに関係なく、スポーツの持つ本質的なものであると考えます。

この2年、日本キンボールスポーツ連盟は、コロナ禍の中、大会や講習会の中止など大きな試練の中での運営を余儀なくされています。そのような状況でも「キンボールスポーツを止めない」ように、オンラインの講習会などに取り組んできました。最悪の状況だからこそ、スポーツの持つ力を信じ、日本連盟は都道府県連盟や会員の皆さんと目標を共有し、手を取り合い、協働していく必要があります。この逆境を乗り越え、その先の明るい未来を皆さんと創造していきたいと考えます。

そのために、2021年度はガバナンスの強化、社会に開かれた連盟を目指し、健全で適正かつ合理的な組織を作るために検討を進めてまいりました。2022年度は組織体制、定款の見直しを行うとともに、新たな指導者資格制度をスタートさせます。

みなさんと一緒に日本キンボールスポーツ連盟は新たなスタートを切り、「新たなコミュニティを創造するスポーツ」としての価値を確立し、持続可能な組織を目指していきます。2022年度もよろしくお願いいたします。

2021年度の主な事業報告

2021年度もコロナ禍の中、予定していた事業の多くが中止または延期となりました。2020年度に始めたZoomを使った研修会や講習会、会議は主催者の経験値も上がりスムーズに行えるようになったものの、オンラインで行うのが難しい事業もあります。しかし、そのような状況の中、公益財団法人スポーツ安全協会 スポーツ普及奨励助成事業として2021年12月4日(土)に山梨県北杜市にて第1回クリニックを対面で開催することができました。日本代表委員会のメンバーから世界レベルの技術の手ほどきを受ける講習会で、参加した11名は真剣に指導を受けていました。

なお、独立行政法人日本スポーツ振興センタースポーツ振興くじ助成事業として行った事業は下記の通りです。

●2021年度東日本地区キンボールスポーツ大会

2021年12月5日(日)に山梨県北杜市にある長坂スポーツ公園体育館にて標記の大会が開催されました。第22回ジャパンオープン・フレンドリーカップの代替大会の一つで、この大会のみ実施することができました。参加チームは10チームと



少ないですが、久しぶりに生き生きとプレーする選手の姿を目にし、コロナ感染拡大防止対策に万全の準備を行っていたスタッフの苦労も報われました。

●キンボールスポーツ講習会2021

コロナ禍であることを考慮し、オンラインと対面での講習会を計画し、オンライン講習会は全て開催することができました。対面での講習会の一つは、2021年11月23日(火祝)に宮



城県の利府町総合体育館において開催され、新たにリーダー2名、マスター7名が誕生しました。対面講習のおかげで、講師も受講者の反応が即座に分かり、実技も行えたためスムーズに指導できました。

●キンボールスポーツ教本製作

コーチ、レフリー、プレーヤーに向けた教本を製作しました。指導方法やレフリングの方法はもちろん、プレーヤーが自ら練習できるよう育成強化委員会の力作、技術指導マニュアルが掲載されています。誰が手にしても役に立つ、楽しめる内容になっています。

●ガバナンス強化

専門家を招き、日本キンボールスポーツ連盟の役員を対象としたガバナンス強化、コンプライアンス研修会をオンラインで開催しました。連盟の活動に携わるすべての人が、スポーツ団体が適切な組織運営を行うための原則・規範を共有することができました。